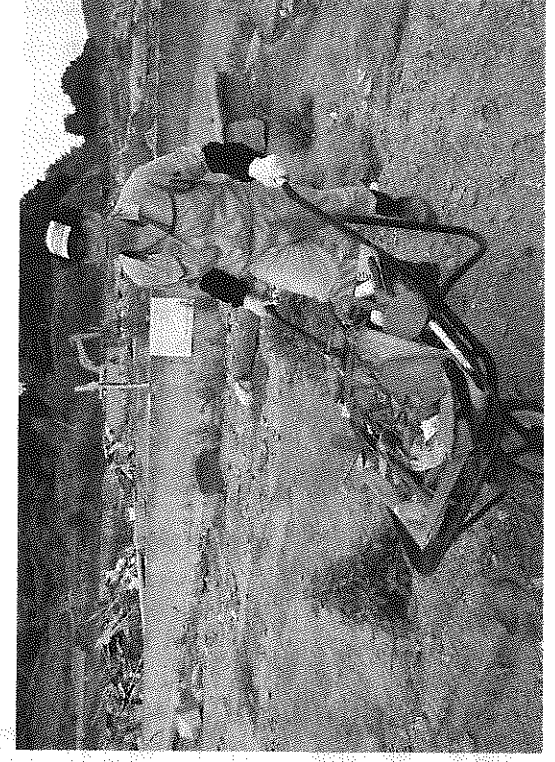
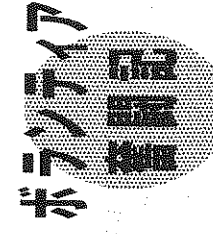


あなたの生活をサポート
共済(保険)・労金相談窓口
 毎週木曜日の昼休み 組合事務室にて

千葉県職

発行所
千葉県職員労働組合
 〒260-8667 千葉県中央区市堀町1の1県庁内
 TEL 043(223)4608 FAX 043(224)8475
 E-mail honbu@chibakensyoku.jp
 URL http://www.chibakensyoku.jp/
 発行責任者 斎藤 美
 編集 小林 順一
 印刷所 あかつき印刷株式会社

復興の願い携え被災地へ



津波で防波堤に打ち上げられた瓦礫を一輪車で片付ける松村さん

35度の暑さの中で作業

7月16日、自治労千葉本部で支援物資を車に積み込み、千葉市を午前9時に出発、午後4時半に宿地の岩手県一関

岩手県陸前高田市

自治労千葉本部がよびかけた岩手県陸前高田市の「自治労連支援センター」には、千葉県内の自治体労働者や関連労働者がボランティアに駆けつけています。7月16日から20日までの5日間、千葉工業用水道事務所分会の松村隆さん、大気保全課分会の遠藤雅昭さんが参加しました。松村さんは、5月の連休参加に引き続き今回2回目の参加です。さらに、8月24日から県職労本部の山下好子

さんが宮城県石巻市へのボランティアに参加しました。被災地は、今も被害の傷跡が大きく、引き続き全国からの支援の輪が求められています。陸前高田市では、津波被害の田に地元の人々とボランティアが、塩害対策として植えたいまわりが元気に育ち、被災者を勇気づけていました。連日の猛暑のなかのボランティアの様子を松村さん・山下さんがレポート。

市に着いて支援物資を届けました。

17日、一関市を出て、午前9時前に陸前高田市の自治労連支援センターに到着、ボランティア作業に合流しました。

宮城県石巻市 困難な中でも元氣な被災者



津波で被災した門脇小学校と西光寺のお墓

18日、どうもろこし

塩鹼を舐めて塩取り、瓦礫撤去

ことで、広田地区はまた悲惨な状況でした。

8月24、28日の5日間、南房総市職・勝浦市職の仲間6人で、宮城県石巻市門脇(かどのわき)のボランティアに参加しました。門脇小学校をはさんだ西光寺のお墓のかなり広範囲(1平方メートル以上)で、瓦礫と近くの製紙工場から流されへばり付いた紙、ガラスや瀬戸物の破片が飛びつた。ドロドロの砂を小さなシャベルで掻き出し土嚢袋へ詰め、男性はスコップで掻き出したり墓石を直したり、かなり重労働でした。佐職さんが言うには、

被災者から寄せられた感謝の手紙

一番嬉しいことは、支援センターで地元のおほさんたちと話ができ、近所の友達から頼まれて

19日は、津波で防波堤に打ち上げられた瓦礫の撤去を、愛媛県の仲間3人と千葉2人の計5人で片付けました。曇り空で助かりました。海を見

ながらの弁当は最高。午後はきれいに片付けることができました。警察官が、海辺で瓦礫の中や土上ロボットで不明者を捜索されていました。さすがに大変な作業でしたが、まだまだ大変な思いをしました。こうして5日間の支援活動は無事に終了しました。

畑での雑草取りは、全国の仲間と地元「タネこをまくべあ」の人達20人と一緒に、鎌を手にして暑い中で大汗を流して作業しました。前日と同様、30分ごとの休憩。塩鹼を舐めながらの作業。午後3時には終了しました。この日は夕食後すぐ寝てしまいました。

上のこていた砂は取り除いたとのこと。しかしその後、機械が入れないので人海戦術で行う訳です。作業した3日間は、ピストンボルトのボルト・青年ボルト・三菱・全労連と毎日150〜200人の人たちが汗を流しました。陸前高田市の石巻市立病院がすぐそばにあり、この辺の復興はまだまだこれからです。私の会った家や流された人達は比較的元気でしたが、行方不明者早人とは、悲しいことです。

持参した手作りのパッチワークのかわいいバッグを幸運でした。帰ってきその方から5枚になる手紙をいただいた。私も少しは力になれたかなと思っています。このような組合活動に初めて参加して、全国の仲間と同じ目標で支援活動をして、現地の方と交流をして、組合の力、大切さをつくづく感じました。東北地方の一日でも早い復興を願っています。

千葉県工業用水道事務所 分会 松村隆

風の声

「つなげよう、ひろげよう、未来は変わる、がんばりすぎない、でもあきらめない」。これは第31回自治体労働者女性の全国交流集会のメインスローガンです。6月25日、26日に岡山県倉敷市で開催され、全国から延べ761人が集まり、学び、笑い、励まし合いました。▶初めて訪れた倉敷市。倉敷川沿いには、今でも住時の面影を残し、商家や蔵が立ち並んでいます。その中心に、大原繁三郎が昭和5年に創設した日本最古の西洋美術館「大原美術館」があります。昔ながらの町家はギャラリーや喫茶店、土産物店など個性的な店舗に修復され、独特な落ち着いた雰囲気を見せていました。▶この集会の準備中に東日本大震災が起きました。自治体の仲間やその家族の命がたくさん失われたこと、自らも被災しながら自分のことは後回しで今も奮闘している被災地からの特別報告に多くの人が涙しました。集会では、これからも引き続き支援していくことを確認しました。(M)

